

性暴力を許さない社会であるために

朗読者 中澤裕子

5 皆さんは、キャッププログラムをご存知ですか？

世界各国で採用されている、いじめや虐待、性暴力などから子どもを守る為の予防教育プログラムです。アメリカで起きた小学2年生の女の子のレイプ事件をきっかけに、教育や医療などに携わる、様々な分野の専門家が集まって考案されました。

10 日本でも、幼い子どもが性犯罪の犠牲となる痛ましい事件は後をたちません。九州で、20年以上に渡りキャッププログラムの普及に取り組んでいる、『にじいろCAP』代表・重永侑紀さんにお話を伺いました。

15 重永さんは、教師や保護者などの大人に向けた啓発プログラムはもちろん、保育園や学校などで、子どものワークショップも行っていきます。

『もしも、体に触られるなど嫌なことをされそうになったら』
『もしも脅迫されたら』寸劇などを通して、対処方法をわかりやすく教えています。

20 時々、授業が終わってもなかなか帰らない子がいます。重永さんがゆっくり時間をかけて話を聴くと、やがて子どもたちは勇気を振り絞って語り始めます。家庭内での性的虐待のこと。性暴力に遭ったけれど誰にも言えないこと。子どもは、直接的な表現ではなく、

言葉を選びながら、迷いながら、懸命に話そうとします。

23 長年、こうした子どもたちの告白を受け止め、保護に繋いできた重永さんは言います。

「多くの子は、自分にもちゃんと人権があって、辛いことは我慢しなくてもいいんだ、ということを知りません。そんな子どもを狙う性犯罪は、大人が思う以上にたくさん起きています。幼い子は自分が何をされているのか理解できません。年齢が上がっても、脅されたり家庭崩壊を恐れたり、助けを求めるのは命がけです。

30 知るということは大切です。自分を守る力を得るということなのです。」

35

性被害に遭っている子ども自身も、言葉で表現するには大変な勇気が必要です。性暴力を絶対に許さない社会であるために、大人が「何か困っていることはない？力になるよ」「あなたには安全に生きる権利があるんだよ」と声をかける勇気を持ちましょう。